

参議院選挙の公認申請の決定にあたって

参議院議員 辻 泰弘

1. 本日、民主党兵庫県連において、来夏の参議院選挙の候補者としての党本部への公認上申を決定して頂いたことは、大変ありがたい、誠に光栄に思うとともに、責任の重大さをかみしめている。

来るべき衆参の国政選挙は、政権交代後の民主党政権に対する国民の信を問うものとなるが、生活第一を掲げ、人間のための経済社会をつくることをめざしてきた民主党が、引き続き政権与党として日本の政治をリードすることができるよう、政府の立場と党の立場の両面において、最大限の努力を傾注して行きたい。

2. 22歳で政治の世界に身を投じて35年。3回の落選を経て15年かかって国政に身を置かせて頂き、今日まで11年間。昨年からは厚生労働副大臣の重責に立たせて頂き、多忙ながらも極めて充実した毎日を過ごさせて頂いている。今日までお支え下さった兵庫県民の皆様方に心から感謝し、今後とものご指導、ご厚誼をお願い申し上げたい。

3. 今日までの政治人生を通じて、「政治は人間の幸せの追求である」ことをわが政治理念とし、長年にわたり「自民党に対峙し、庶民の感覚、庶民の目線、庶民の常識が通用する政治の実現」を追い求めてきたが、今日、政権与党の立場に立ち、内閣に連なる一員として国政の一端を担っていることに思いを致せば、誠に感慨深く、心からなる感謝の念と責任を果たすことに向けてのさらなる決意の思いを新たにする。

4. 資源なき日本の最大の資源は「人」であり「人材」である。

将来に向けての日本の繁栄と国民の幸せを築いていくためには、日本はこれまで以上に「人」を育て、国民の個性と能力が最大限に開花され得る社会をつくっていかねばならない。そのためには、社会保障、雇用・労働、教育などの分野における制度の基盤の充実・強化が不可欠である。

そのような見地から、私は、厚生労働副大臣として、現内閣最大の課題である「社会保障と税の一体改革」の実現に全力を尽くし、もって日本の国の進路に誤りなきを期して参りたい。

5. 民主党、及び、民主党政権に課せられた課題は山積しているが、「政治とは情熱と判断力の二つを駆使しながら、堅い板に力を込めて少しずつ穴を開けていく作業である」ことを肝に銘じ、これからも兵庫県民の皆さんとともに、仲間の皆さんとともに、「幸せ追求」の取り組みを力強く進めて行きたい。

以 上